

議員定数2減の16人に

諸課題調査検討委が議長へ答申

諸課題調査検討委員会（伊藤明彦委員長、委員7人）は、議長から諮問されていた「議員定数、報酬及び政務活動費について」を調査検討するため、昨年2月に設置されて以降、7回にわたり委員会を開き協議してきました。このほど結論を取りまとめ、定例会最終日である3月18日に議長へ答申（報告書を提出）しました。



福田議長（左）に報告書を手渡す伊藤委員長（中）

議員定数は、近隣の市議会や全国の類似団体の定数などを参考に、各会派からの意見を集めた上で議論を重ねてきました。「現状維持の18人」との案も出ましたが、結果としては減少傾向が見込まれる人口動態も踏まえ、「2人削減の16人」とすることが妥当としました。

議員報酬（月額30万円）については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域経済に大きな打撃を与えている状況などを考慮し、現時点における報酬額については現行のとおりとすることが望ましいとしました。

ただし、多様化する市政課題に対し、より責任ある活動が求められていることや、報酬額が25年以上にわたり据え置かれていることなどから、報酬額の見直しについては次期市議会議員改選後の令和5

年9月以降、速やかに市長の諮問機関である陸前高田市特別職報酬等審議会の開催を望むこととしました。

政務活動費（月額1万2500円）についても、近隣市議会の状況や地域経済情勢などを考慮し、現状維持が適正であるとししました。

今後は、議会報告会や議会のホームページ等で市民の意見を聞いた後、変更がなければ9月定例会に定数減を盛り込む条例改正案を発議する予定です。可決されれば来年9月の改選期から議員定数が16人となります。

市民から意見募集

議会事務局へ5月末まで

本市議会は、議員定数や報酬などについて、市民から広く意見を募集しています。

諸課題調査検討委員会が、令和5年9月の改選期から、議員定数を現在の18人から2人減らして16人とし、報酬（月額30万円）と政務活動費（同1万2500円）は現状のとおりとする内容の答申を行いました。そこで、市民から広く意見を募集します。

意見のある人は、住所、氏名、年齢を明記し、ハガキかFAX（0192・53・1210）、メール（gikai@city.rikuzentakata.iwate.jp）でお寄せください。

また、市議会に対する要望も受け付けます。

〈あて先〉〒029-1229-2

陸前高田市高田町字下和野100番地

陸前高田市議会事務局 宛

〈しめきり〉令和4年5月31日（火）

（当日消印有効）

第1回臨時会

令和4年第1回臨時会は、1月19日に行いました。報告1件のほか、新型コロナウイルス感染症対策予算を盛り込んだ令和3年度市一般会計補正予算案1件を原案通り可決しました。

補正予算の内容は、歳入歳出それぞれ5億3022万5千円追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ225億8050万6千円としました。

歳出の主なものは、コロナ対策として住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業費3億4315万5千円（住民税非課税世帯等に対して1世帯10万円を給付）、子育て臨時特別給付金支援事業費1億277万9千円（対象児童への追加給付）、そのほか市道除雪対策事業費、市道改良舗装事業費です。

全員協議会

令和4年1月以降に開催した全員協議会の当局案件をお

知らせします。

1月19日

○陸前高田市公共施設等総合管理計画の改訂について

○奇跡の一本松の根の展示について

○トンガ諸島付近で発生した大規模噴火に伴う潮位変化の対応について

2月24日

○陸前高田市男女共同参画計画（案）について

▼計画期間 令和4年度から令和13年度まで（10年間）

○ピーカンナツツ植樹会について

3月18日

○令和3年度陸前高田市一般会計補正予算等の専決処分について

○陸前高田市協働のまちづくり指針の策定について

○令和3年度地域防災計画の見直しについて

▼陸前高田市地域防災計画について、改正災害対策基本法の施行や岩手県地域防災計画の改訂を受けて改訂する。

（担当・佐々木一義）

管外行政視察報告

総務常任委

総務常任委員会（中野貴徳委員長、委員6人）は、1月11日から13日まで、佐賀県武雄市と福岡県春日市を訪れ、管外行政視察を行いました。

佐賀県武雄市では、「民間活力を生かした指定管理者制度によるサービス拡充の取り組みについて」説明を受けたほか、「まち・ひと・しごと創生総合戦略における観光施策について」視察しました。

指定管理者制度により運営されている図書館内には民間の店舗スペースが設けられ、年中無休で午前9時から午後9時までの開館や各種イベント開催など、「図書館は人間の成長」を理念に掲げ、さまざまな取り組みが行われてい

ました。

観光施策については、令和4年の秋に九州新幹線、西九州ルート開業を見据え、近隣市町と連携した魅力づくりに取り組み、受け入れ環境の充実を図っていました。

福岡県春日市では、「シティプロモーションによる都市の魅力発信及び協働のまちづくりについて」視察しました。

同市は、隣接する福岡市（博



武雄市図書館

多駅）まで電車で20分という利便性に優れた立地にあることからベッドタウンとなっており、「市民に選ばれ続ける街」を目指して市民目線で市の魅力を発信することで、市に対する誇りや愛着心を育み、市民満足度の向上を図っています。協働によるまちづくりの手法について学ぶことができました。

今回の視察を通し、自治体を超えた連携のほか、民間との連携などで果敢に挑む姿は大変刺激となり、有意義な視察研修となりました。

研修期間中はコロナ禍ということもあり、新聞などで是非についての意見もありましたが、事前の抗原検査をはじめ、感染防止対策を徹底し、健康観察を行うなど、国が示している基準に基づいた対策を講じたところでした。帰着後も委員それぞれ健康観察を行いました。